画面の向こうの仕事が見えてくる。

相手の視点で想像し、本人が気づき、試すことを支える関わりへ。



例：途中の提案書を共有し、本人の話を聞く場面。

企業のリーダーとの実践から

当社は2020年11月5日、
二つの核を扱うコースの
販売開始を発表しました。

**相手の視点で想像し、
実現できる条件を考える。**

**本人が成長課題に
気づけるよう関わる。**

振り返りの言語化、必要な教示、
仕事の中で続ける工夫まで、
16項目の学習内容を用意しました。

誰が、何を決めるための提案だろう。

営業担当者の提案書が途中で止まっている。画面を共有し、本人の迷いを聞きます。

提案書（作成途中）

商品の仕様	記載済み
価格・納期	記載済み
相手が重視する条件	これから本人と確認
今回、決めたいこと	まだ共有できていない

まず、一つ尋ねる

「今回は、誰に何を決めてもらいたいですか」

「どこで迷いましたか」

本人が分かっていることと、次に確かめることが見えてくる。

説明、見本、練習。一緒に聞くことも。

本人が見ている仕事と、使える情報・経験に合わせて、次の支援を選びます。

背景が分からない	提案で、相手のどんな判断を支えたいか説明する。
聞き方が浮かばない	顧客に確かめる問いを、上司が一つ実演する。
使い分けに迷う	一部分を本人が試し、途中の案で一緒に考える。
相手の条件が必要	顧客への確認事項を決め、必要なら一緒に聞く。

次の面談では、条件を確認できたか、提案の判断に使えたかを同じ実物で。

想像したら、本人の情報で見立てを更新。

当社のコースで扱った実践と、他者理解・統制の実験研究を照らして考えます。

本人から、新しい情報を得る

Eyalら（2018）は、他者理解の正確さを25の実験で検討。最終実験では、直接の会話から情報を得た条件で、判断の正確さが高まりました。

仕事では

「できるはず」と思っていたことと、本人が話した迷いを並べる。違ったところから、次の支援を選び直します。

関わりが、どう受け止められたか

Falk・Kosfeld（2006）は、最低水準を設けるか選べる実験ゲームを検討。この実験では、多くの参加者が統制への反応として成果を下げました。

仕事では

品質や安全に必要な確認の目的、本人が選べる範囲、相談先を一緒に決め、関わりの受け止めも聞きます。

実験の対象・条件は、当社の職場での関わりと異なります。研究は、本人から得る情報と、関わりの受け止めを考える手がかりとして用います。

Eyalら（2018）原典・著者公開ページ

Falk・Kosfeld（2006）原典・学会公開ページ

四つの場面から、近いものを選んでみる。

読みもの「相手を、どう見ていたか。」で、最近の一件を思い出すところから。

A｜対話前の見通し

対話前に、相手に必要なことは
だいたい分かっていた。

B｜提案への道筋

提案したいことがあり、
そこへ話を進めた。

C｜予想外の発見

予想していなかった事情が、
話を聞いて見えてきた。

D｜合意と理解

合意は得たが、どこまで理解
できたかは、まだ分からない。

四つの場面と、次の対話の問いを読む →

一つでも、複数でも、今は選べなくても。文章にまとめる前から使えます。

教える準備を、一件の仕事から。

「仕事を教える実践室」で、自分に近い困りごとを選び、短い例を眺めます。

仕事を教える実践室を開く →

見本や短い例から、次に用意したい支援を一つ。

前提・見本

本人と共有したい
材料は、何か。

一部分の練習

次の仕事で、何を
一度試してみるか。

相談する条件

どこで、誰に話すと
進められそうか。

2020年のコースの問題意識と学習内容を、現在の仕事へ。

場面を思い描き、振り返りを言葉にし、必要な教示や小さな実践を支える。
当時の発表をもとに、例と現在の公開コンテンツへの案内を充実しました。

自社の育成や仕事での活用について相談する →